

都市づくりフォーラム 第31回

都市づくりトピックス

人口が減少に転じ高齢化社会が到来する中で、まちづくりのあり方も転換を迫られています。同時に、今後様々な地方をめぐるには極端な少子高齢化も予想されております。

また、地方都市の中心市街地、特に商店街の衰退が叫ばれるようになってから久しく経ちます。具体的には、車社会の進展、人口の郊外流出、大型商業施設の郊外への出店に加え、病院、学校といった公共施設の郊外拡散が、結果として中心市街地のにぎわいを奪い、商業の衰退を招いてしまいました。そこで、今回は中心市街地再生に向けてコンパクトシティという考え方についてお知らせします。

<コンパクトシティの考え方>

コンパクトシティの基本的な概念は、地域コミュニティを重視し、中心市街地を中心に、既存の都市機能を効率よく活用した都市・まちづくりといった政策を指すものです。

具体的には、人間が歩いて移動できる範囲を基準にしたまちづくりです。中心市街地を中心に、商業のみならず、住む、働く、学ぶ、遊ぶ等の機能を都市の中心部にコンパクト化することで、環境に配慮した中心市街地活性化を生み出します。

日本では、1995年の阪神大震災からの復興に向けて、大都市が地域社会としての力を高めていくためには、「コンパクトシティ」を目指すべきという元神戸市長の声明が、日本における「コンパクトシティ」の先駆けになったといわれています。

羽生市においても、皆さんが環境にもやさしく、歩いて暮らせて、便利で楽しいなどと思えるようなまちづくりになればと思います。

羽生のいいところミーツ

毎回知られざる羽生市の魅力をお伝えするこのコーナー。

今回は、下新郷地内にある「はしか門」について古くからの言い伝えをご紹介していきたいと思えます。

はしか門



現在（改修後）



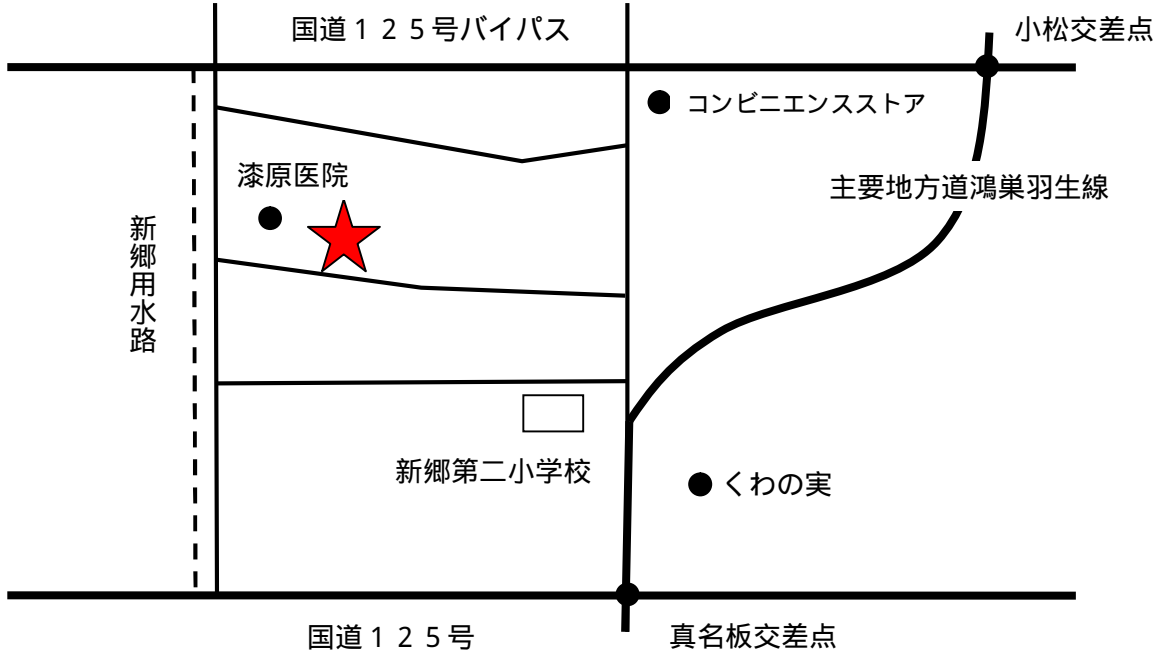
過去（改修前）



所々に穴が開いており、門を削り取られた跡が見られます。
(旧はしか門側面)

この門は今から約400年前の江戸初期に、ある年の暮れの夕刻、大雪に、道に迷った一人の旅人が訪れ一晩泊めて欲しいとやってきました。この旅人は日光東照宮の眠り猫などを彫ったことで知られる左甚五郎でありました。彼はお礼に、残木を用い刃物一挺で門を作りましようとして申し出ました。はしか門を建築する際に、火難除けか盗難除けのどちらの名目で建てるかという彼の問いに対し、主人は盗難除けと答えたといひます。そしてある日、盗賊が押し入り、はしか門から出ようとする、不思議と罪の意識に襲われ、盗んだものを主人に返し、お詫びに自分の刀を差し出して謝ったという逸話があります。

それからいつの日か、この門を潜ると麻疹にならないという噂が広まり、「はしか門」と呼ばれるようになったそうです。人々は災難や麻疹除けに門や扉を削って持ち帰る人が多くなり、門扉に大きな穴や裂け目が目立つようになりました。加えて長い年月を経て老朽化も著しく平成6年～平成7年に解体復元をして、現在のはしか門に至るといひます。現在においても、はしか門は原寸通り復元して生まれ変わり、人々を災いから守ってくれています。



市民フォーラム

今回ご紹介したもの以外に、皆さんの身近で、羽生市内の景観や歴史的に魅力あるスポット等の情報を募集しております。また、羽生市の都市づくりについて感じることや疑問に思うこと等がありましたら、どしどしご意見をお寄せください。下記の方法によりご連絡お待ちしております！

市民フォーラムへのご意見やいいところミーツケへの情報提供先は

都市計画課（内線 273）

FAX 048-561-6380

E-mail toshikei@city.hanyu.lg.jp